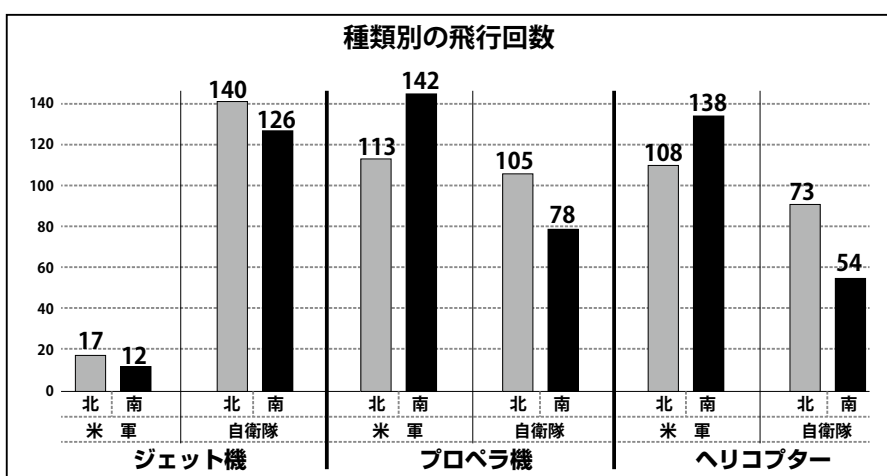


種類別の飛行回数

目視による種類別の飛行回数調査では、ジェット機が米軍機と自衛隊機で基地北側157回、基地南側で138回、合計295回の飛行を確認しました。



目視による種類別の飛行回数調査では、基地北側は米軍機と自衛隊機で16機種（厚木基地所属でない外来機8機種を含む）の飛行を確認し、基地南側は米軍機と自衛隊機で13機種（外来機



飛行する自衛隊機 P1

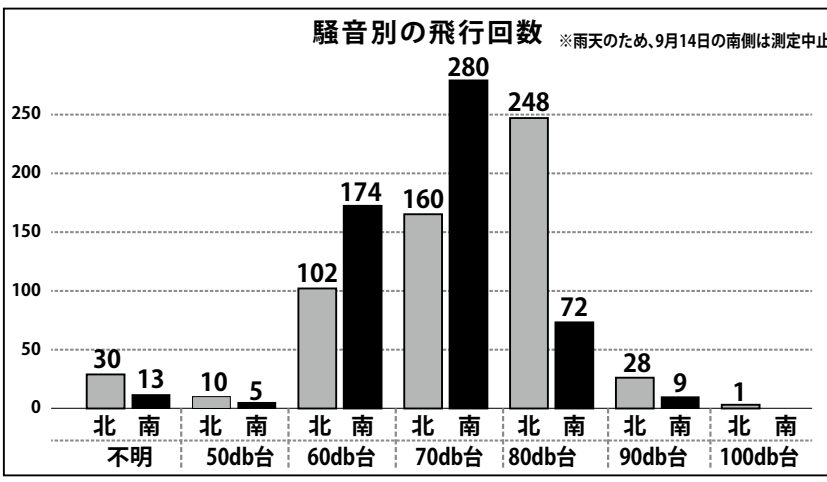
5機種を含む）の飛行を確認しました。特に、基地北側と南側の合計では、米軍ヘリコプターのMH60機が242回、米軍連絡機のUC12F機が271回、自衛隊哨戒機P1機が270回の飛行を確認しました。

確認された16機種のうち米軍ヘリコプターMH60機と自衛隊哨戒機P1機との2機種が全飛行回数の半数近くを占めています。その他にも自衛隊哨戒機のP3C機（69回）と自衛隊ヘリコプターSH60機（96回）の飛行が目立ちました。

Table with flight counts for various aircraft models (MH60, UC12F, P1, etc.) at North and South bases, including counts for stationary aircraft.

騒音別の測定回数

ハンディ型騒音測定器による騒音別の飛行回数調査では、基地北側で80db台が最大の248回となり、基地南側で70db台が最大の280回の測定を確認しました。



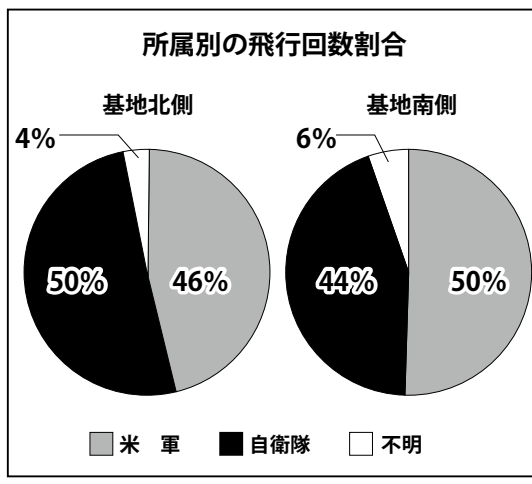
目視による所属別の飛行回数調査では、米軍機と自衛隊機の飛行回数は、基地北側で米軍機267回、自衛隊機292回、不明機20回、そして基地南側で米軍機292回、自衛隊機258回、不明機32回で、基地北側と南側ともに米軍機と自衛隊機の飛行割合はほぼ半分と確認されました。

まとめ

今回、厚木基地周辺の騒音測定データを分析した結果、艦載機移駐後の4月から7月までの70dbから90db台の騒音測定回数は、毎月1000回を超えている状況が続いています。

このことは、特定の機種が何らかの訓練を実施していることが考えられます。今回の目視調査では、米軍ヘリコプターMH60機のホバリング音やエンジンテスト音、さらには旋回飛行訓練を繰り返していることが確認できました。

この騒音発生源と考えられるヘリコプター機は、機体の部品や窓枠などを落下させる事故を多発している大変危険な航空機です。また、自衛隊の哨戒機P1機とP3C機、米軍の連絡機UC12F機などによるタッチアンドゴー訓練が繰り返されていることなども発生源であると考えられます。



高い騒音は、移駐により減少しましたが、神奈川県生活環境の保全等に定める条例に定められている住居専用地域（8時から18時）での騒音許容限度とされている50dbをはるかに超える70dbから90db台の違法騒音が、いまだに毎月1000回を超えている状況からして、艦載機の移駐によって静かになったとは言えず、引き続き70dbから90db台の違法騒音の解消に取り組んでいかなければなりません。

このようななか国は、さる7月4日に日米間で調整した「艦載機移駐後の厚木基地の運用」を基地周辺自治体に説明した中で、空母艦載機の移駐後は、米海軍のヘリコプター部隊、支援部隊、常駐機、外来機及び海上自衛隊航空部隊並びにその他の部隊が厚木基地を引き続き使用し、日米間にとり重要な基地として維持されるとしています。

このことから引き続き、ヘリコプター部隊や支援部隊の航空機による騒音被害と部品落下事故の不安を被ることにありますので、新たな運動目標を構築して引き続き騒音解消に取り組んで行かなければなりません。

そのためにも、いま暫く移駐後の騒音実態を把握していくことが肝要と考えます。

データの詳細は、厚木爆同のホームページに掲載する予定です。

(厚木爆同書記長 荻窪幸一)

厚木基地を飛行する航空機の 目視調査と騒音測定を実施

厚木基地に配備されていた米空母艦載機のF A 18戦闘攻撃機やE A 18電子戦機などの航空機61機は、今年3月末までに山口県の米軍岩国基地への移駐が完了しました。

このことにより国は、さる7月4日に艦載機移駐後の4月と5月の厚木基地の騒音状況を調査した結果として、騒音レベル100db以上の大きい騒音回数が移駐前と比較して9割程度減少したと基地周辺自治体に説明しました。

しかし、移駐後も依然としてジェット機の飛来が確認されているにも関わらず、国からの説明では、これまでの騒音がすべてなくなったかのような説明であり、到底納得できるものではありません。

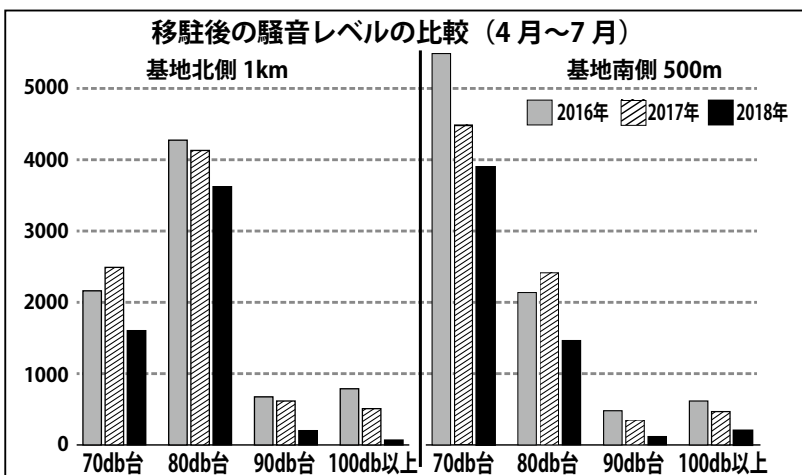
艦載機の移駐によって

騒音がどのように変化したか

このようなことから、艦載機の移駐によって、基地周辺の騒音がどのように変化したか、騒音測定データを分析



目視調査と騒音測定をする役員



した結果は、移駐前に比べ8割から9割程度の減少となりました。

艦載機騒音の減少は

爆音解消運動の成果

このように、100db以上の大きな騒音の減少は、私たちの長年にわたる爆音解消58年間の運動の成果であり、特に40年を超える爆音解消の裁判闘争で、「受忍の限度を超える爆音である」「違法な爆音である」「健康被害を与えている」などの判決を勝ち取ってきたこと、さらに行政や議会、市民の声などが力となり、国を動かしたことにより騒音を減少させることが出来たのです。

70dbから90db台の騒音は

未だに1000回を超える

一方、90db台の騒音測定回数については、6割から7割程度の減少、そして

目視調査と騒音測定で 飛行の実態が明らかに

厚木基地を飛行する航空機の目視調査と騒音測定は、さる9月10日から21日まで、土日祝日を除く9日間、厚木爆音と五次原告団の役員延べ72名が参加して実施しました。

調査方法は、厚木基地北側の「ふれあい草柳広場」の駐車場（滑走路から北へ約500m地点）と、基地南側の「大和ゆとりの森」の東側駐車場（滑走路から南へ約500m地点）において、午前9時から午後4時まで、二人一組で目視による航空機の確認とハンディ型騒音測定器による騒音測定を実施しました。

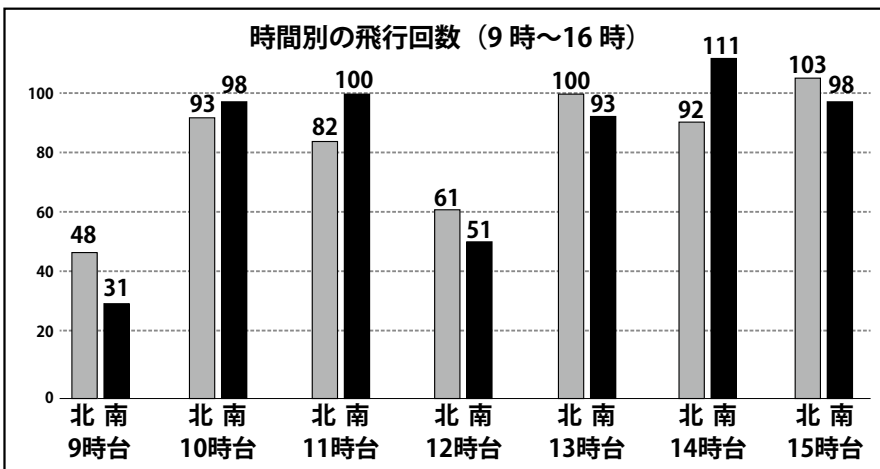
日ごとの飛行回数

目視調査による日ごとの飛行回数調査では、基地北側での一日当たり（午前9時～午後4時）の最大飛行回数は



ハンディ型の騒音測定器

9月11日の105回で、雨天の日が二日間ありましたが、9日間の合計で579回の飛行を確認しました。同じように基地南側での一日当たりの最大飛行回数は同じく9月11日の108回で、9日間の合計で582回の飛行が確認され、基地北側と南側の合計では1161回の飛行がありました。時間別の基地北側と南側の飛行回数は、下記グラフのとおりです。



1000回を超える70dbから90db台の騒音回数

年	基地北側 1km				基地南側 500m			
	4月	5月	6月	7月	4月	5月	6月	7月
2018年	1,438	1,686	1,187	1,096	1,534	1,700	1,130	1,060
2017年	2,183	2,485	1,422	1,079	1,952	2,375	1,450	1,104
2016年	2,183	2,271	1,481	1,122	2,470	2,443	1,771	1,165

こともあり、厚木基地を飛行する航空機の目視調査と騒音測定の独自調査に取り組みことを、さる9月1日の臨時執行委員会で決定しました。